

SSKS

あけぼの つうしん

3月号

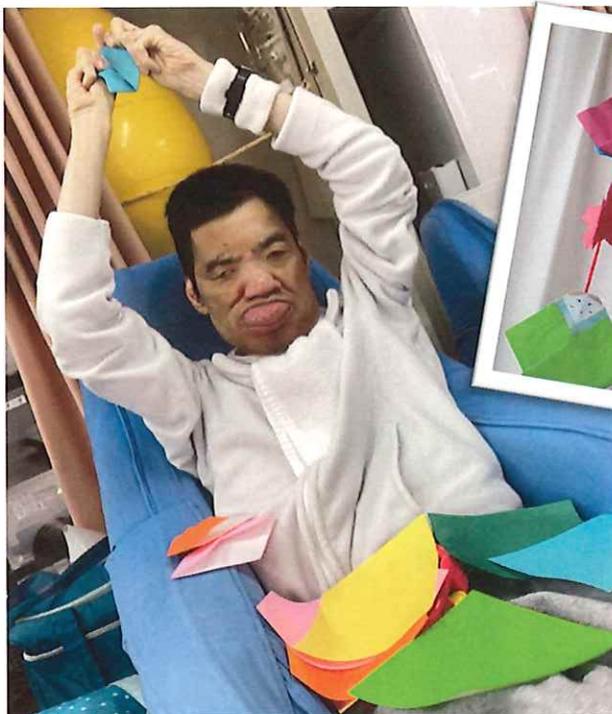
2023年
1995年

3月
8月10日

発行
第3種郵便認可(毎週1回
SSKS 増刊通巻

水曜日 発行)
第8695号

発行所
東京都世田谷区祖師谷3-1-17
障害者団体定期刊行物協会
定価50円



折り紙制作
「飾り雛」を作りました。

府中共同作業所

社会福祉法人あけぼの福祉会 <http://akebono-fukushi.com>

- 府中共同作業所(法人本部) 〒183-0056 東京都府中市寿町3-3-6
☎042-367-0640 E-mail: kyoudous@akebono.fuchu.tokyo.jp
- ワークセンターこむたん 〒183-0056 東京都府中市寿町3-3-6
☎042-306-8639 E-mail: komutan@akebono.fuchu.tokyo.jp
- 府中生活実習所 〒183-0005 東京都府中市若松町5-2
(短期入所事業併設) ☎042-363-5251 E-mail: f-seijitu@akebono.fuchu.tokyo.jp
- 地域生活支援センターあけぼの 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル1F
☎042-358-1085 E-mail: siencenter@akebono.fuchu.tokyo.jp
- ホームヘルプステーションきぼう 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル1F
☎042-352-0630 E-mail: kibou@akebono.fuchu.tokyo.jp
- グループホームペンギんはうす 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル3,4F
(グループホームあけぼのユニット) ☎042-319-8915 E-mail: pengin@akebono.fuchu.tokyo.jp
- グループホーム樹林の家 〒183-0026 東京都府中市南町6-52-10
(グループホームあけぼのユニット) ☎042-319-2268 E-mail: kirin@akebono.fuchu.tokyo.jp
- あけぼのショートステイ 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル2F
☎042-319-8917 E-mail: akebonoshort@akebono.fuchu.tokyo.jp

KOMUTAN フィナンシェ物語 第1章

～この4月 地域に愛されるカフェを目指して
ワークセンターこむたん喫茶室にて新たな仕事づくりがスタートします～



2023年3月23日、あけぼの福祉会は法人設立30周年を迎えました。長い年月のなか、法人第3期中期構想にて計画がはじまり2012年10月に開所したワークセンターこむたんは、この春、設立より11度目の春を迎えます。

この10年間、こむたんでは、身体障害、知的障害、視聴覚障害など、障害の種類も、年齢も、経験も、本当にバラエティに富んだたくさんの利用者が、地域の一員として共に働き、共に成長をしてきました。

しかし、近年、新型コロナウイルス感染症による販売機会減や作業減などの影響が大きく、収入確保がなかなかできずにおり、開所当初と比較しても事業所全体として授産収入の減少を止めることができずいました。施設方針でも、工賃を上げていくために新規しごと事業の開拓、喫茶室の活性化などが課題としてあげられ、「しごと会議」というプロジェクトチームをつくるなど、施設全体で課題解決に取り組んできました。

2022年度 東京都の事業を活用して喫茶室の改善を検討しました

引き続き工賃アップの課題解決に取り組む状況のなか、2021年度には喫茶事

業について「外部のアドバイス等をもとに」より発展的な事業展開をしていくことが議論され、今年度6月に東京都の「商品開発等業務改善支援等モデル事業」に応募をしました。幸いにも都内6か所のモデル事業所のうちの1つに選定され、8月よりこむたんの授産収入をあげていくための、モデル事業が開始されました（このモデル事業に関しては、対象が就労継続支援B型となっており、こむたんでは喫茶事業が対象となります。）

モデル事業は『工賃が伸び悩む要因を見つけ出し、アドバイザー（伴走者）と事業所が一体となって問題を解決していく』こととされており、こむたんでも派遣されるコンサルタントとの会議、職員会議などで何度も何度も話し合いを重ねてきました。闊達な意見交換ののち、最終的には「看板を出せないなど地域の景観協定があるためPRしにくい環境（弱み）はあるものの、外部道路に面していること（強み）すでに天然酵母パンで一定のお得意様がいること（強み）を生かして、喫茶室で新たな焼き菓子を作る、という新規事業に取り組むことで、こむたん喫茶室を地域により強くPRしていくこと」が決まりました。

焼きたてがおいしい! 『フィナンシェ』 製造への取り組み

喫茶室で「焼き菓子」をつくる」ということがある程度決まってきた中で重要なのは『どんな』焼き菓子にするかということです。せっかく1階喫茶室で製造をするのなら焼く過程でおいしい香りただよ『焼きたてのフィナンシェ』を提供しませんか?お菓子界でとっても有名なシェフが製造指導をしてくれることも可能ですよ。コンサルタントさんからのこんなおすすりもあり、さっそく勉強を始めました。

フィナンシェは焼き菓子大国であるフランスの代表的な焼き菓子であり、マドレーヌと同様、ご贈答にもぴったりの定番商品であること。生地を焦がしバターを加えオーブンで焼くことで、なんともいえないバターの香りが店内外にひろがること。それらの基礎知識をもとに、製造を教えるシェフのお店に伺い、製造過程を見学させていただくなかで、上記に加えて①計量から袋詰めまで利用者の作業として役割をもち、やりがいを感じられる作業工程があること。②今いる利用者や今後増やしていく利用者の作業参加が見通せる商品であること ③焼きたてのフィナンシェを食べてみると、どっしりとしたマドレーヌとまた違う良さとして、外はカリッと、中はふんわりアーモンドなどの香りもただよいサクッと軽い、外からも中からもバターのおいしさがはじけるとても魅力的な商品であることがわかりました。



新たなチャレンジは4月からが本番!

おいしいフィナンシェをつくるためには、これまでの喫茶厨房を改良しなければなりません。これまで喫茶厨房になかったスチームコンベクションオーブンなど、新たな機器の導入も必要不可欠ですが、その設備導入については高額であることから、10月、設備機器購入に必要な費用のうち1/2補助が出る、東京都の「受注促進・工賃向上設備整備費補助事業」に応募。審査内示を経て2月に入札を完了し、現在納品を待っているところとなっています。

3月、該当部署となる喫茶事業に従事する利用者だけでなく、施設利用者全員に4月からの新たな事業について説明を実施しました。利用者職員とも、新しい焼き菓子の製造にわくわくドキドキ、そして、これからもっと「ベーカリー&カフェこむたん」へのお客が増えることにウキウキしながら新しい機器が入り、作業をはじめられる日を待っています。

「ベーカリー&カフェこむたん」は、4月より半月程度、お休みをいただき、4月半ば(予定)よりフィナンシェとパンのお店としてリニューアルオープンをすることにしています。

次年度の「あけぼのつうしん」にて、利用者の製造に奮闘する様子、そして、取り組み始めたフィナンシェのお味はいかに?のフィナンシェ物語 第2章をお伝えできるよう頑張りたいと思います。

スチームコンベクションオーブン、
卓上型ミキサー、シーラーなど、
フィナンシェ作りに必要な機材の導入準備を着々と進めています。





グループホームあけぼの ペんぎんはうす

新たな仲間を迎えての1年



新年、新入居者

2022年1月、「ペんぎんはうす」男性フロアでは前年に退所された方がいたため1室の空きができていましたが、新しい入居者を迎えて新年のスタートを切りました。2016年の開所以降初めての
新入居者を迎えるにあたっての準備から現在に至るまでを振り返っていきます。

事前準備

新入居者を迎えるにあたっての第一歩は家族との面談でした。これまでの生活経験や家での過ごし方、好きなことや苦手なことなど本人についてたくさんのお話を伺いました。ここでは、他の入居者の生活の様子を参考に、自宅での生活を「ペんぎんはうす」での生活に移行したらどのようなになるかイメージしながら話を進めていきました。

また、家族にはこの時「ペんぎんはうす」内の見学をしていただき、全体の生活タイムテーブルを用意し、なるべく具体的に生活をイメージしてもらうことができるように説明を行いました。

私室でゆっくり



開所時の入居者受け入れの際と異なる最大のポイントは既に入居者がおり、全体の生活リズムができているという点です。

開所時は全員が初めての「ペんぎんはうす」での生活であり、入居者、職員皆で生活の流れを創りあげてきました。6年間でできあがってきた流れの中に本人の生活スタイルを尊重しながら、なるべくストレスのないように入ってきてもらうことができるようタイムテーブルと支援のポイントについて作成していきました。ここでは主に、家族の話や日中通所事業所から入念にヒアリングを行い、それを参考に組み立てていきました。

もう一つの大事なポイントは他の利用者への影響を予測することでした。生活空間をともにするにあたっては、新しく入る側、迎える側双方にとって大きな影

響を与えます。「ペンギんはうす」の入居者の多くが環境の変化に対して敏感であり、場合によっては混乱を招くことにもつながってしまいます。

そのため、既存の利用者に対しては第一に、以前の生活リズムが崩れることがないように配慮をしました。これまでの支援を変わずに続けることで安心して過ごすことができるように、その軸がしっかりとしていれば影響を最小限に抑えることができると考えました。はじめは、「ペンギんはうす」内で見慣れない人がいることに、少し気にする様子を見せていた人もいましたが、時間を重ねていくことで慣れていった様子でした。



みんな変わらず楽しい生活が続いています

入居開始と日々の積み重ね

入居開始に際しては急な環境変化に伴う本人へ与える影響を鑑み、家族と相談のうえ週2泊「ペンギんはうす」で過ごすことから始めました。そこから徐々に時間を増やしていくことで、少しずつ人を含めた新しい生活環境に慣れていって

もらうことにしました。

はじめは、「ここはどんな場所なのだろうか」と玄関からリビングまで各所を何度も往復して見て回ったり、少し緊張した様子も見受けられました。段々と「ペンギんはうす」で過ごす時間を延ばしていく中、帰ってきてからの生活の流れを固定化していくことで、ここでの過ごし方に慣れていけるよう支援しました。はじめに見られた探索行動も段々と減り、繰り返し誘導したことで私室やリビングの自分の席といった「自分の場所」の認識をもつことができるようになってきました。「自分の場所」は落ち着く様子で、今では余暇時間の多くをそこで過ごしています。

この1年間を通して、統一した支援を積み重ねていくことで安心感を得られる場所となるよう職員間で情報共有を行いながら支援を続けてきました。変化にあたっては家族、日中通所事業所と頻りに連絡を取りながら対応をしてきました。

また、本人と支援者が慣れてきて関係性ができてきたことで、自己主張が出てくるようになってきたり、小さな表情の変化に気づくことができるようになってきました。とても嬉しい変化だと感じています。引き続き、快適な「家」となるよう支援に努めていきたいと思えます。



府中生活実習所 自主製品「ポチ袋」を紹介します!

紙すきの工程
です

1.牛乳パックのフィルムをはがします

2.はがした紙をシュレッダーで裁断します

3.裁断した紙をミキサーでドロドロにします

4.紙すきの容器にいれます

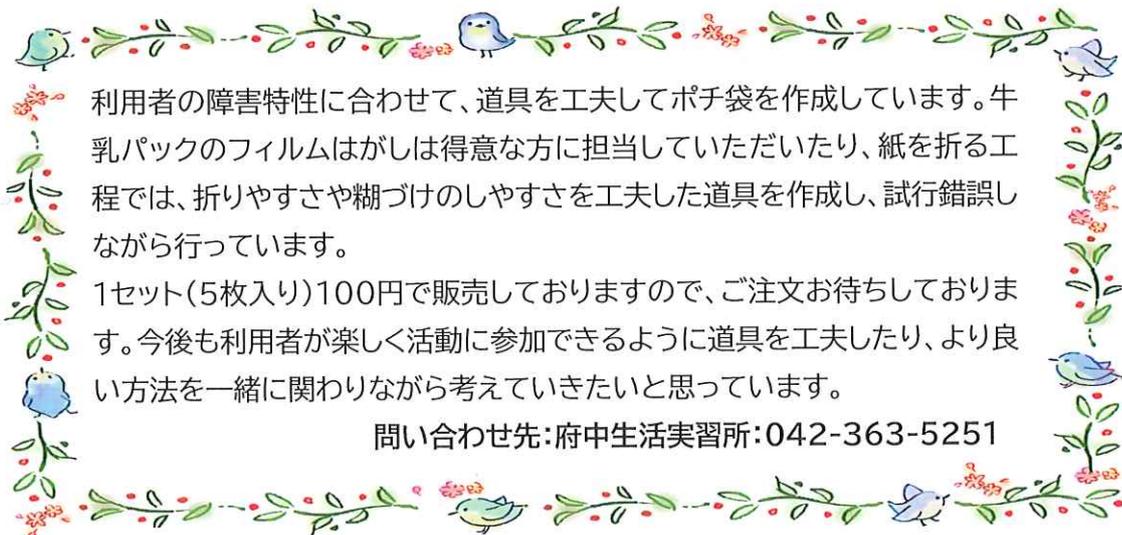
5.紙を優しくすきます

6.すいた紙を乾かします

6.カットした紙を折って糊づけします

7.できあがったポチ袋を5枚袋詰めして商品の完成です

100円
(5枚入り)



利用者の障害特性に合わせて、道具を工夫してポチ袋を作成しています。牛乳パックのフィルムはがしは得意な方に担当していただいたり、紙を折る工程では、折りやすさや糊づけのしやすさを工夫した道具を作成し、試行錯誤しながら行っています。

1セット(5枚入り)100円で販売しておりますので、ご注文お待ちしております。今後も利用者が楽しく活動に参加できるように道具を工夫したり、より良い方法を一緒に関わりながら考えていきたいと思っています。

問い合わせ先:府中生活実習所:042-363-5251

【編集後記】

桜の花が咲く季節となり、今年度も終わろうとしています。コロナウィルスの蔓延が続き、大変な1年となりました。来年度は5類へと移行されますが、福祉や医療の現場ではまだまだ対策が必要かと思えます。対策をとりながらもイベントなどが復活し、利用者の生活の幅が広がり笑顔がたくさん見られるといいなと思っています。

3月になり、花粉の飛ぶ時期となりました。私が所属しているはっぴい課では取り組みの中で、花粉症に効く飲み物について調べ、皆で味見をしました。じゃばら・生姜・はちみつを使いオリジナルドリンクを作っています。おいしいと思う方や酸っぱいと思う方がいて、とても良い反応と表情が見られました。花粉症が辛い方はぜひお試しください。

(ワークセンターこむたん 金沢)

1995年 8月10日 第3種郵便認可(毎週1回 水曜日 発行)
2023年 3月 6日 発行 SSKS 増刊通巻 第8695号